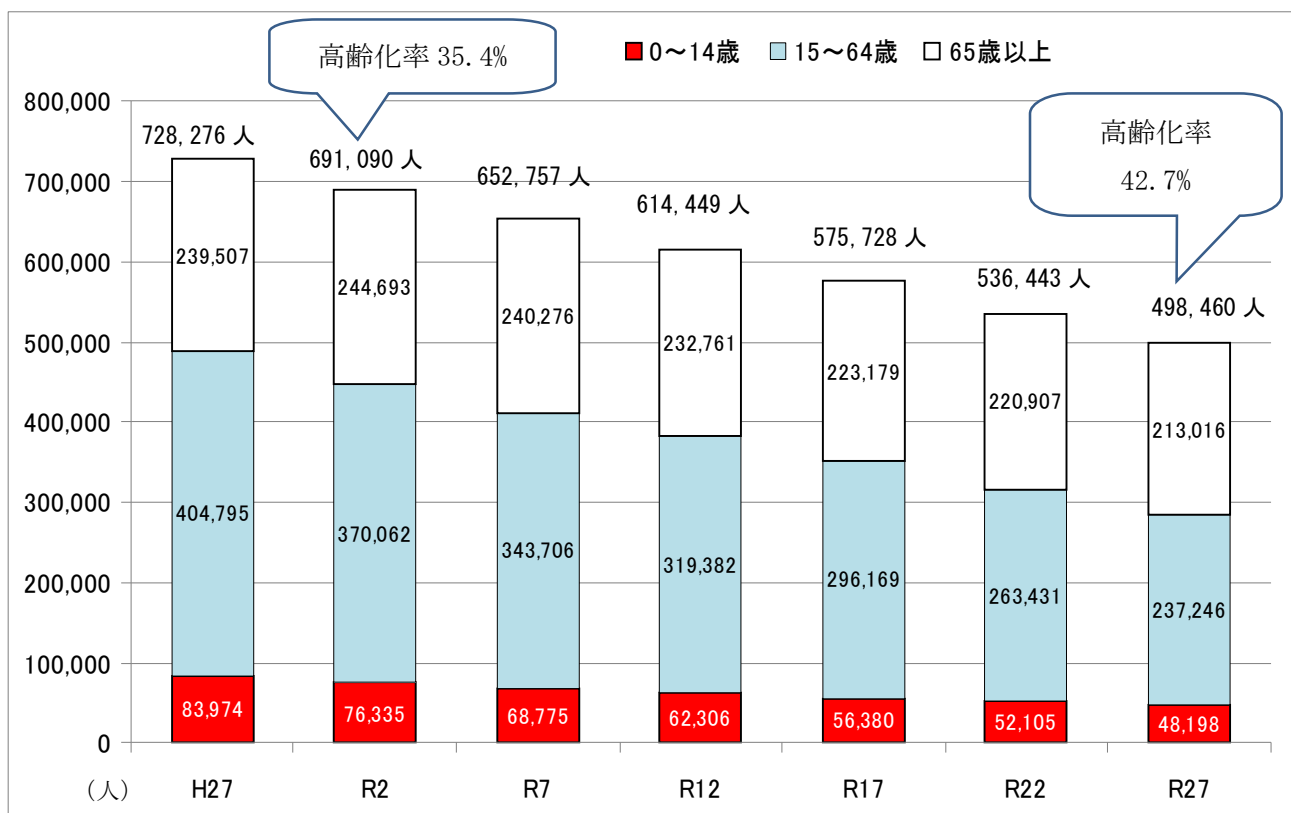


II 障害のある人の動向

1 高知県の人口の推移

本県の高齢者人口は、令和2年度にピークを迎え、その後は減少に転じると見込まれています。しかしながら、高齢化率は、総人口が減少することから令和2年度以降も上昇する見込みです。また、一方で少子化は年々進む見込みです。(図II-1-1参照)

■ 図II-1-1 高知県の人口推移と将来推計人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計」
(H27は、総務省「国勢調査」結果)

2 各種手帳の交付状況等

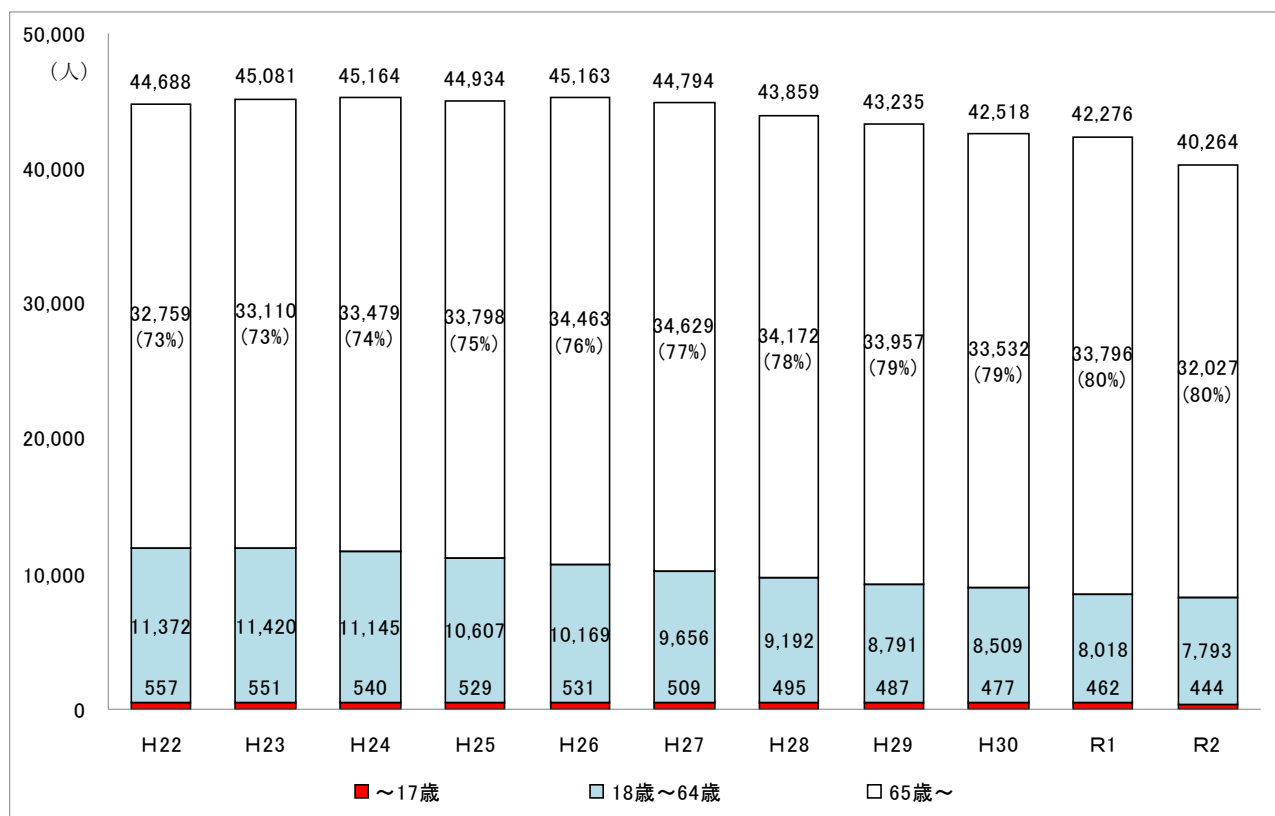
(1) 身体障害者手帳

令和2年3月31日現在の身体障害者手帳の交付者数は40,264人で、県人口(※1)の約6.0%を占めています。また、交付者数に占める65歳以上の人の割合は約8割を占めています。(図Ⅱ-2-1参照)

また、交付者数のうちおよそ半数が1級～2級の重度の障害となっています。(図Ⅱ-2-2参照)

障害部位別では、交付者数のうち肢体障害が約5割を占めており、心臓や腎臓など内部障害が約3割で推移しています。(図Ⅱ-2-3参照)

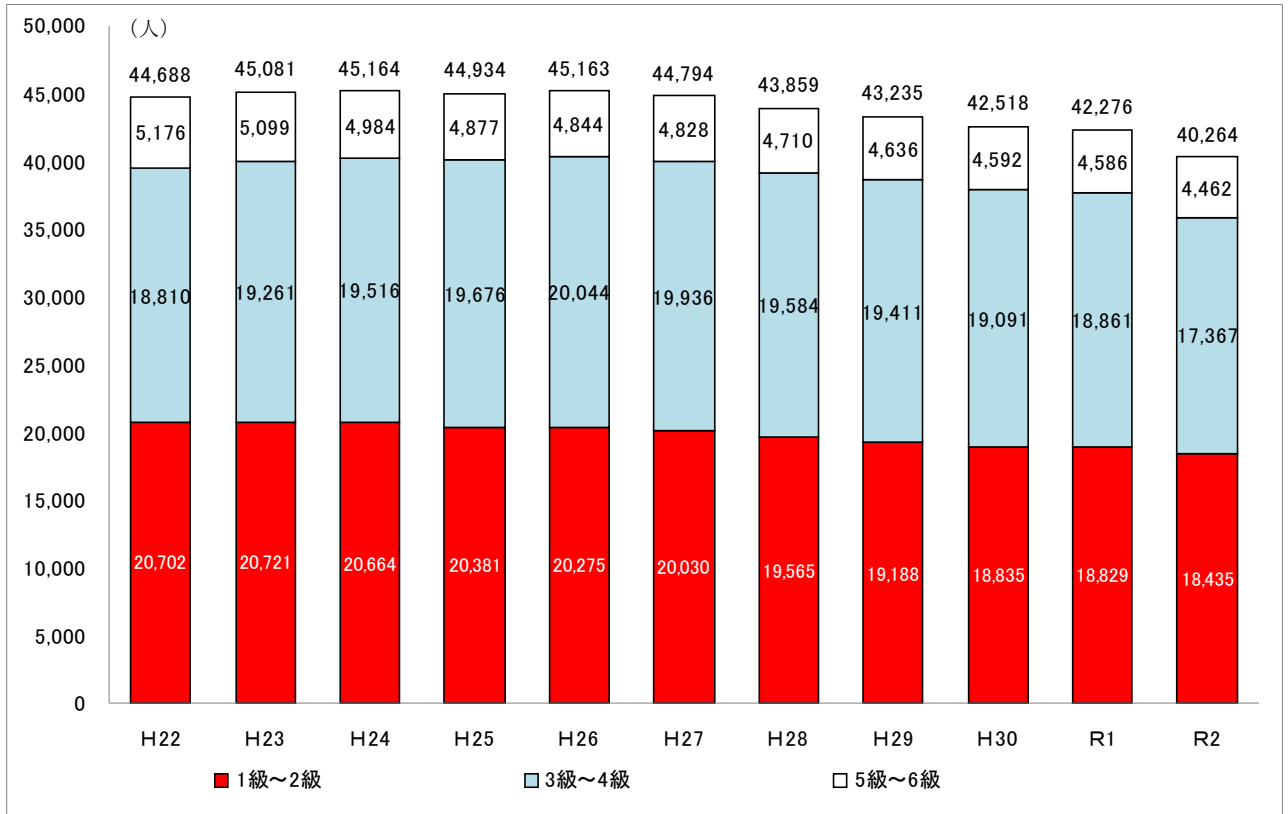
■ 図Ⅱ-2-1 年齢別交付者数の推移(各年3月31日現在)



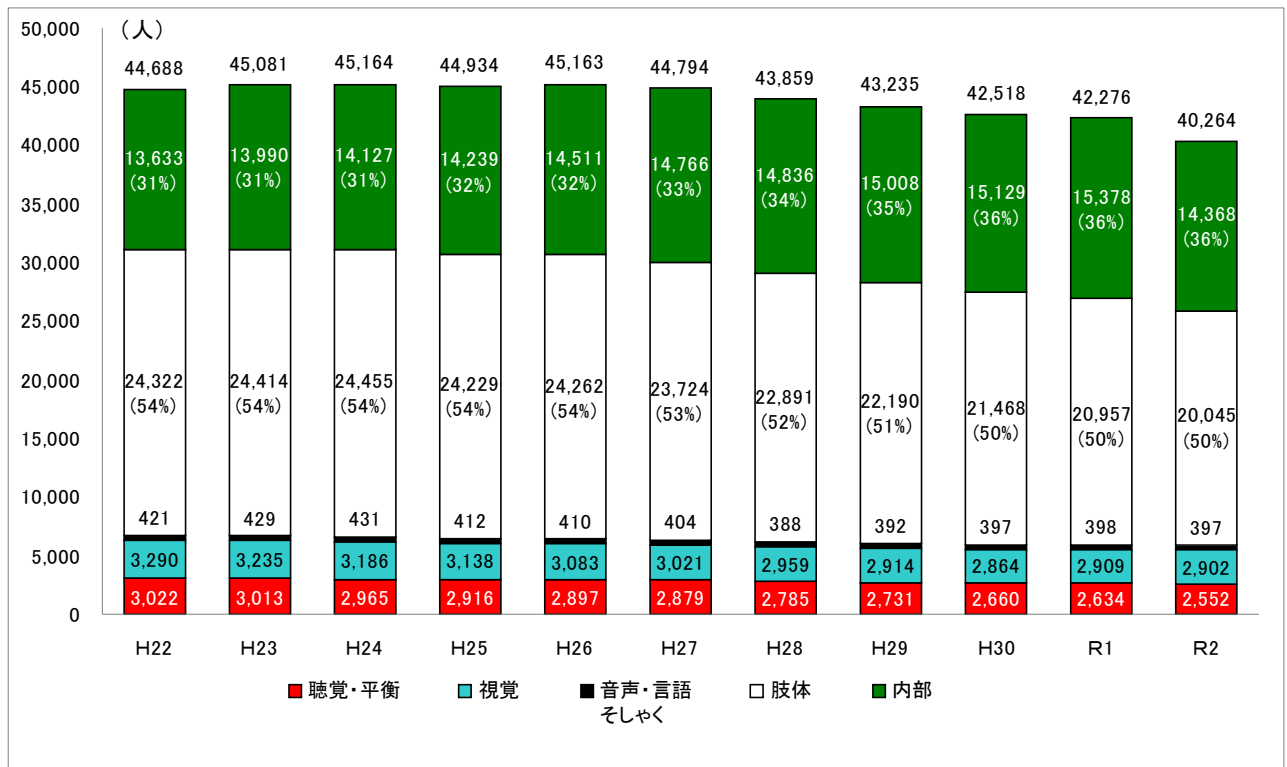
※1 県人口

令和2年3月1日現在 694,794人(高知県推計人口調査より)

■ 図Ⅱ－２－２ 級別交付者数の推移（各年３月３１日現在）



■ 図Ⅱ－２－３ 障害部位別交付者数の推移（各年３月３１日現在）

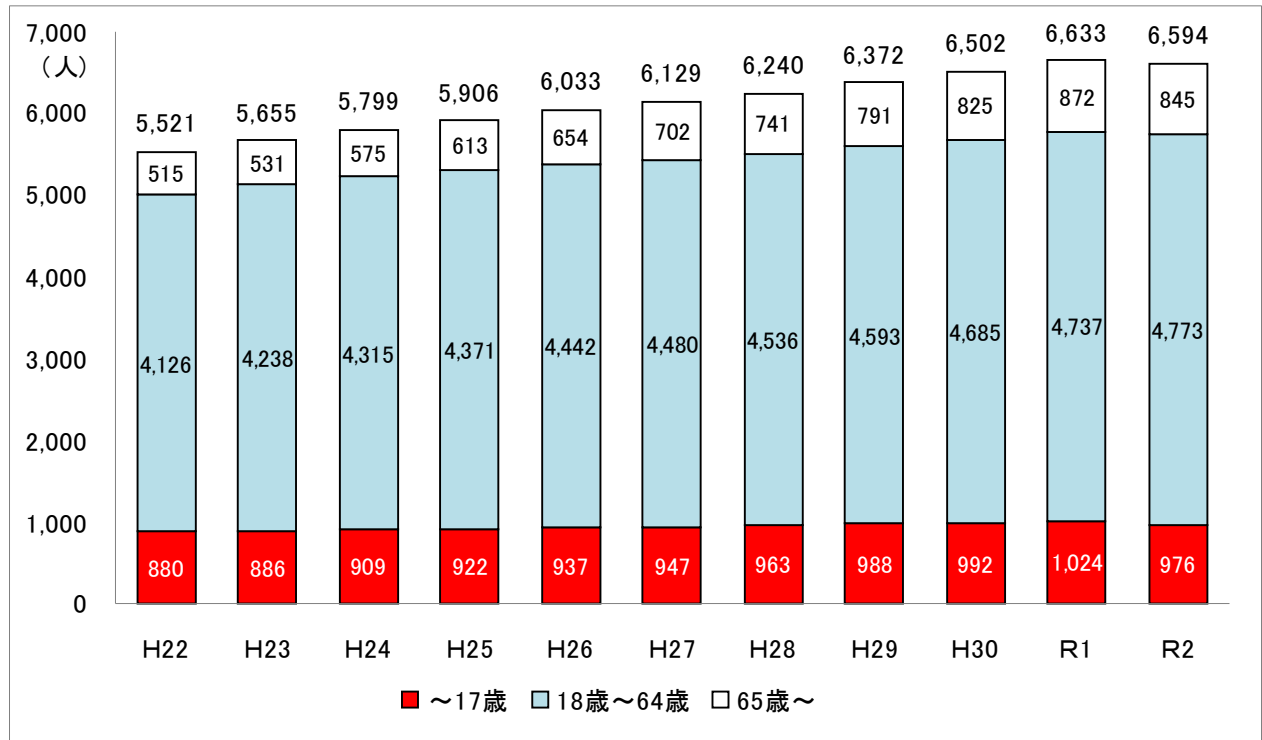


(2) 療育手帳

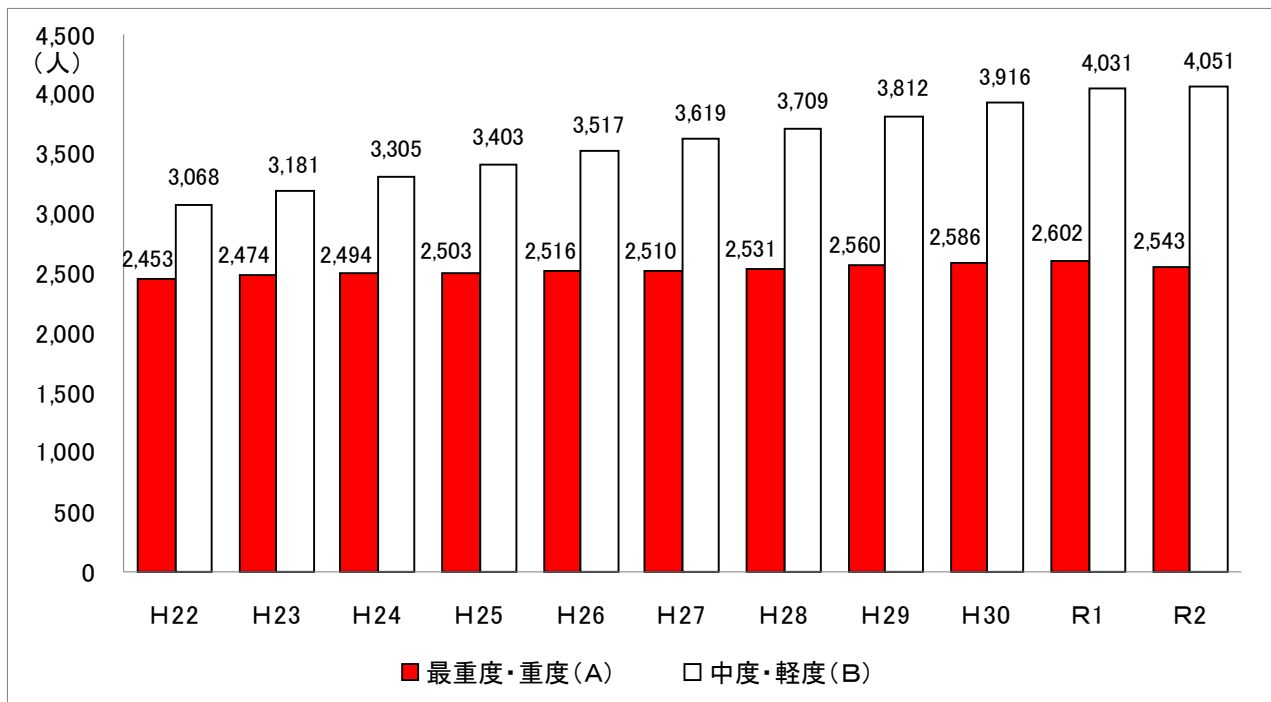
令和2年3月31日現在の療育手帳の交付者数は、6,594人となっており、年齢別で見ると、18歳以上が増加しています。(図Ⅱ-2-4参照)

また、障害程度別の交付者数では、中軽度(B)が重度(A)より多い状況が続いています。(図Ⅱ-2-5参照)

■ 図Ⅱ-2-4 年齢別交付者数の推移 (各年3月31日現在)



■ 図Ⅱ-2-5 障害程度別交付者数の推移 (各年3月31日現在)

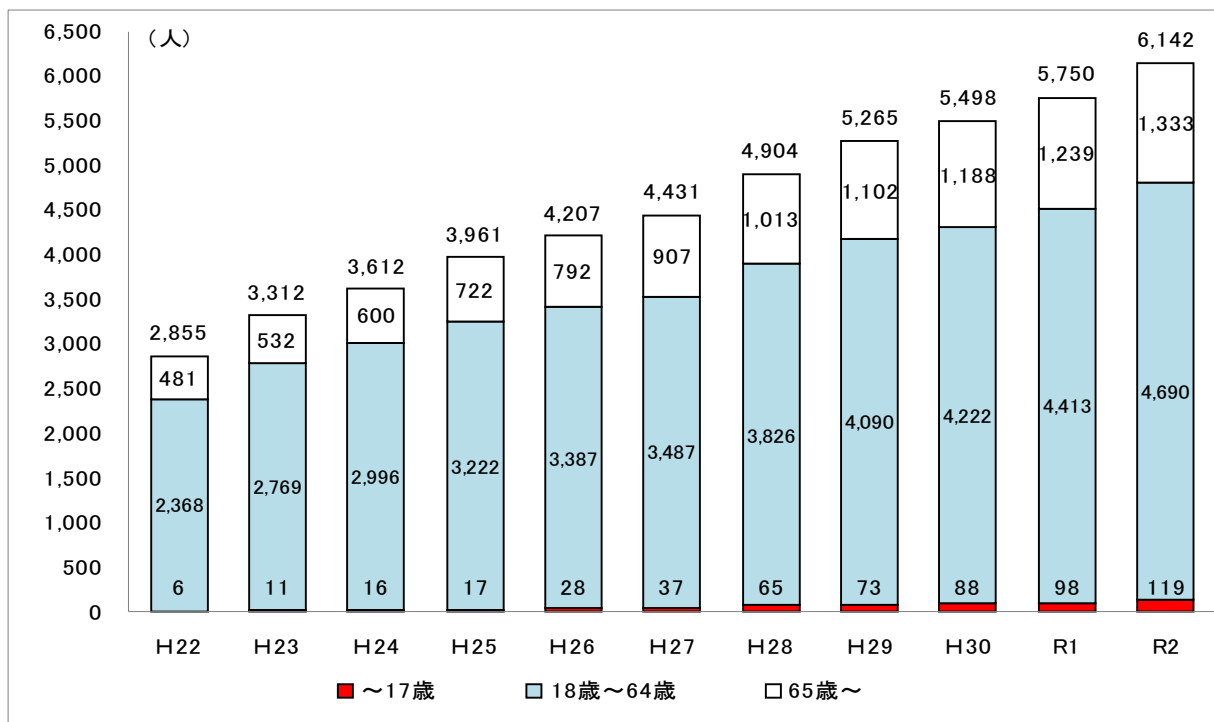


(3) 精神障害者保健福祉手帳

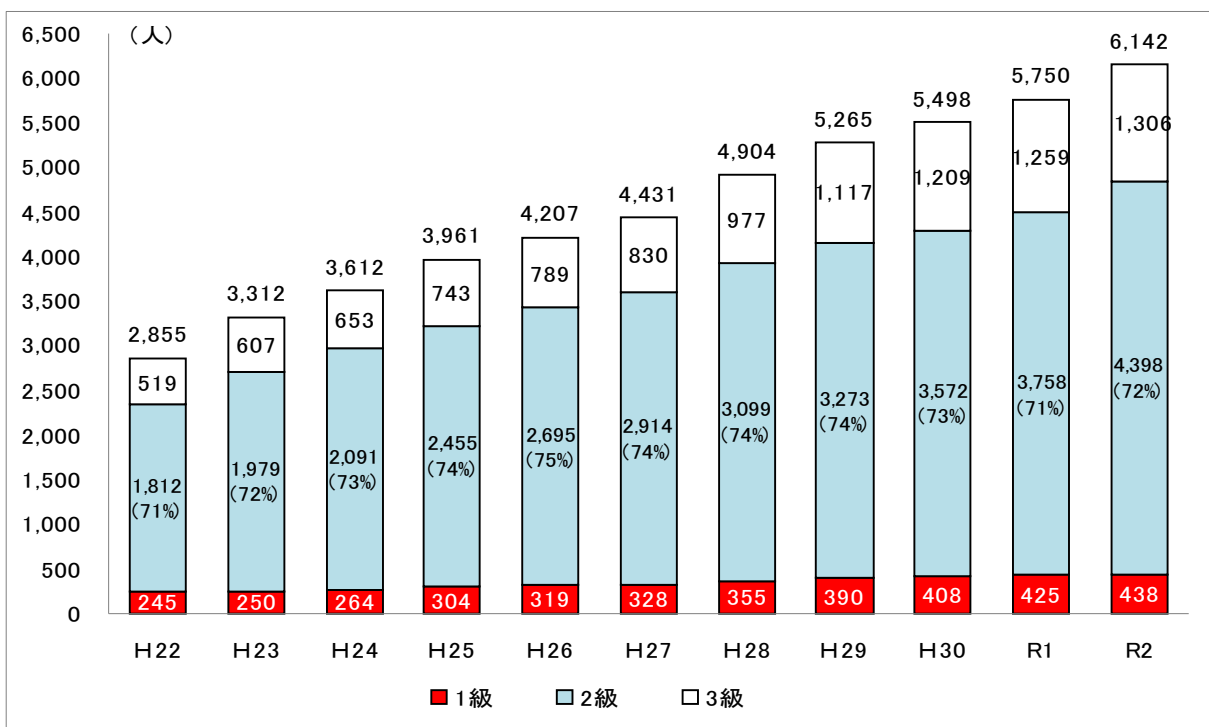
令和2年3月31日現在の精神障害者保健福祉手帳の交付者数は6,142人で、増加傾向にあります。(図Ⅱ-2-6参照)

等級別では、2級の占める割合が7割以上となっています。(図Ⅱ-2-7参照)

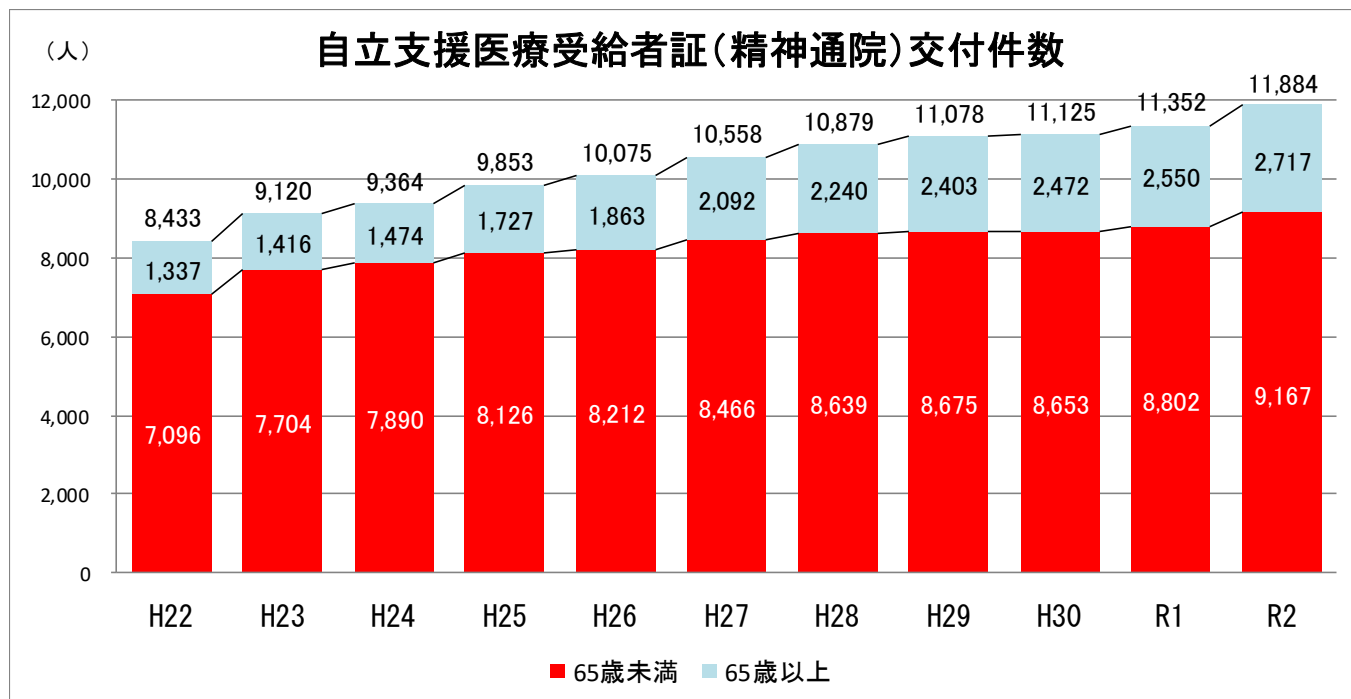
■ 図Ⅱ-2-6 年齢別交付者数の推移 (各年3月31日現在)



■ 図Ⅱ-2-7 級別交付者数の推移 (各年3月31日現在)



(参考) 自立支援医療受給者証(精神通院) 交付件数の推移 (各年3月31日現在)



(4) 障害保健福祉圏域別に見た障害者手帳の交付状況

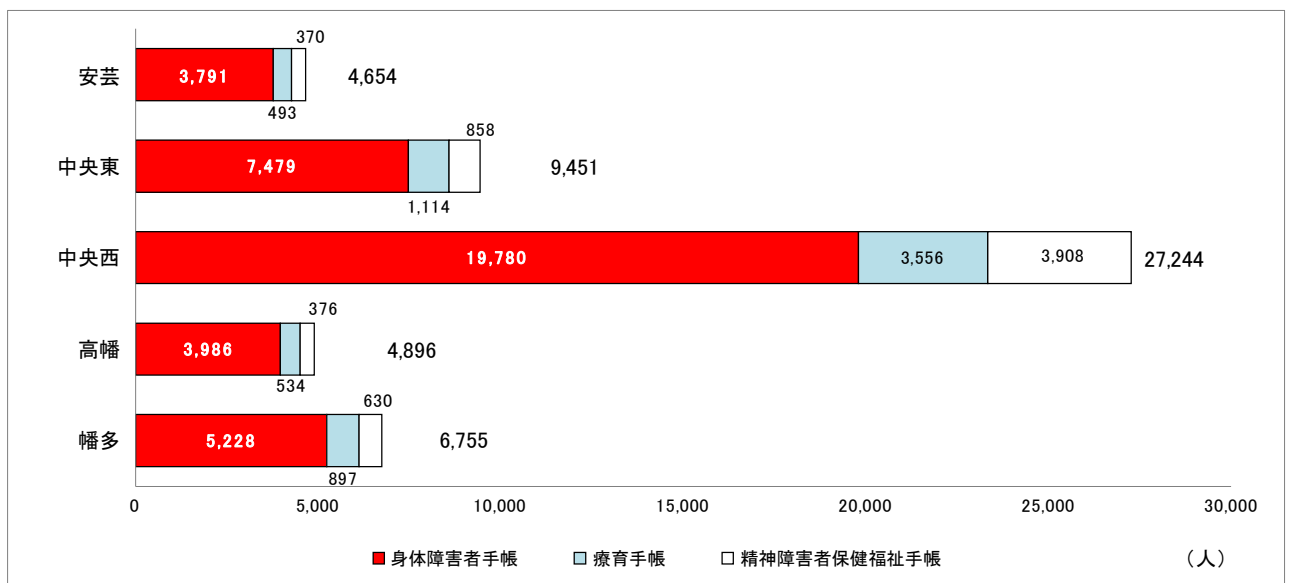
令和2年3月31日現在の本県における障害者手帳の延べ交付者数は53,000人で、県人口の約8%を占めています。

なかでも、人口の多い高知市における交付者数が、全体の4割近くを占めています。(表Ⅱ-2-1及び図Ⅱ-2-8参照)

■ 表Ⅱ-2-1 障害保健福祉圏域別の各種手帳交付状況 (R2.3.31 現在)

	身体障害者手帳		療育手帳		精神障害者 保健福祉手帳		合計	
	交付者数	%	交付者数	%	交付者数	%	交付者数	%
安芸	3,791	9.4	493	7.5	370	6.0	4,654	8.8
中央	27,259	67.7	4,670	70.8	4,766	77.6	36,695	69.2
中央東	7,479	18.6	1,114	16.9	858	14.0	9,451	17.8
中央西	19,780	49.1	3,556	53.9	3,908	63.6	27,244	51.4
高知市	14,375	35.7	2,804	42.5	3,380	55.0	20,559	38.8
高知市以外	5,405	13.4	752	11.4	528	8.6	6,685	12.6
高幡	3,986	9.9	534	8.1	376	6.1	4,896	9.2
幡多	5,228	13.0	897	13.6	630	10.3	6,755	12.8
合計	40,264	100	6,594	100	6,142	100	53,000	100

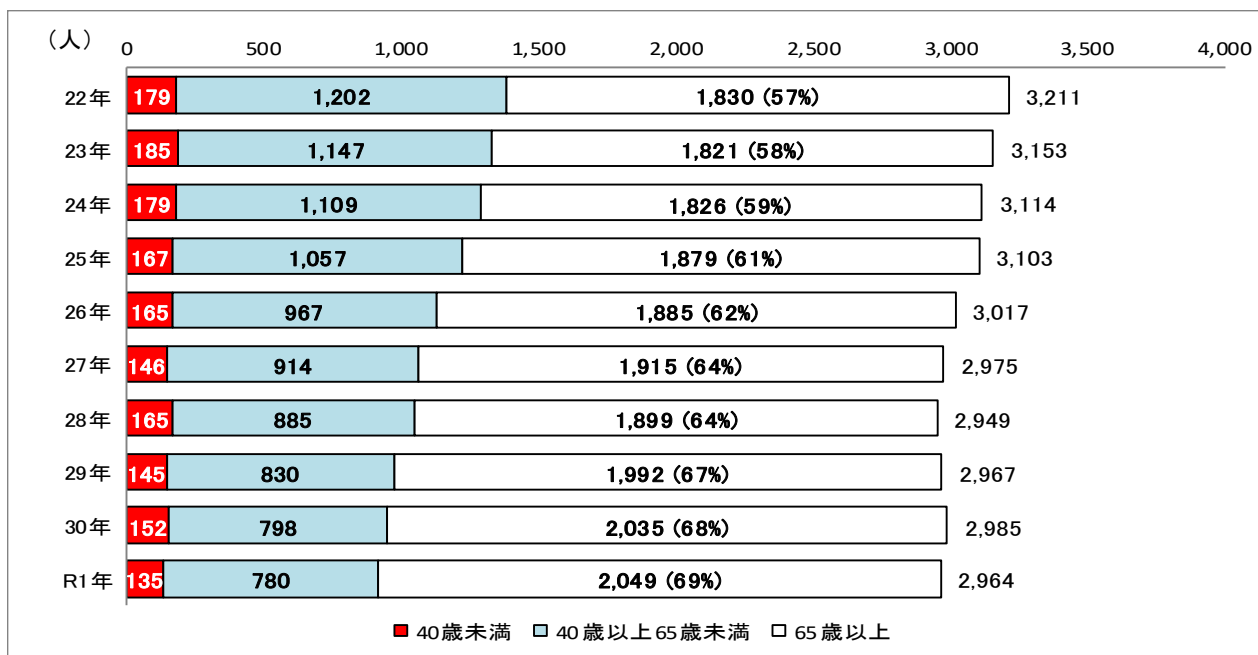
■ 図Ⅱ-2-8 障害保健福祉圏域別の各種手帳交付状況 (R2.3.31 現在)



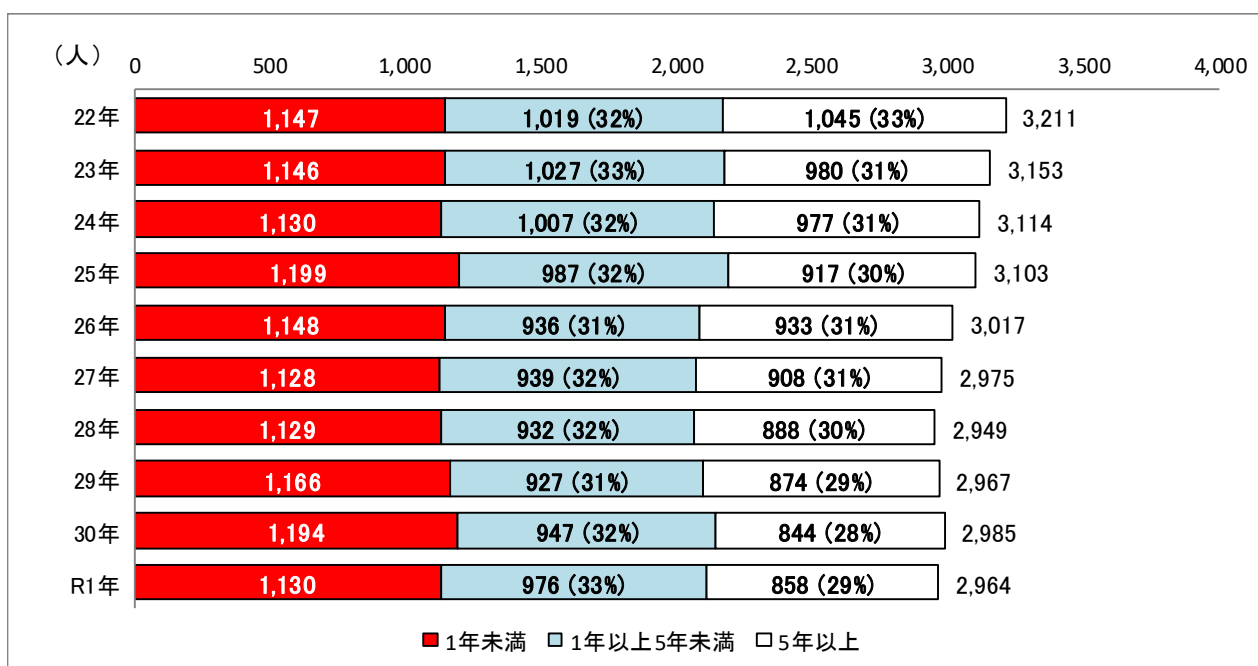
3 精神科病院入院患者数等

県内の精神科病院の入院患者数は、令和元年6月30日現在で2,964人となっており、全体では減少傾向にありますが、65歳以上の患者が7割近くを占めています。(図Ⅱ-3-1参照) また、在院期間では、1年以上の長期入院している患者が6割を占めています。(図Ⅱ-3-2参照)

■ 図Ⅱ-3-1 年齢別入院患者数の推移 (各年6月30日現在)



■ 図Ⅱ-3-2 在院期間別入院患者数の推移 (各年6月30日現在)

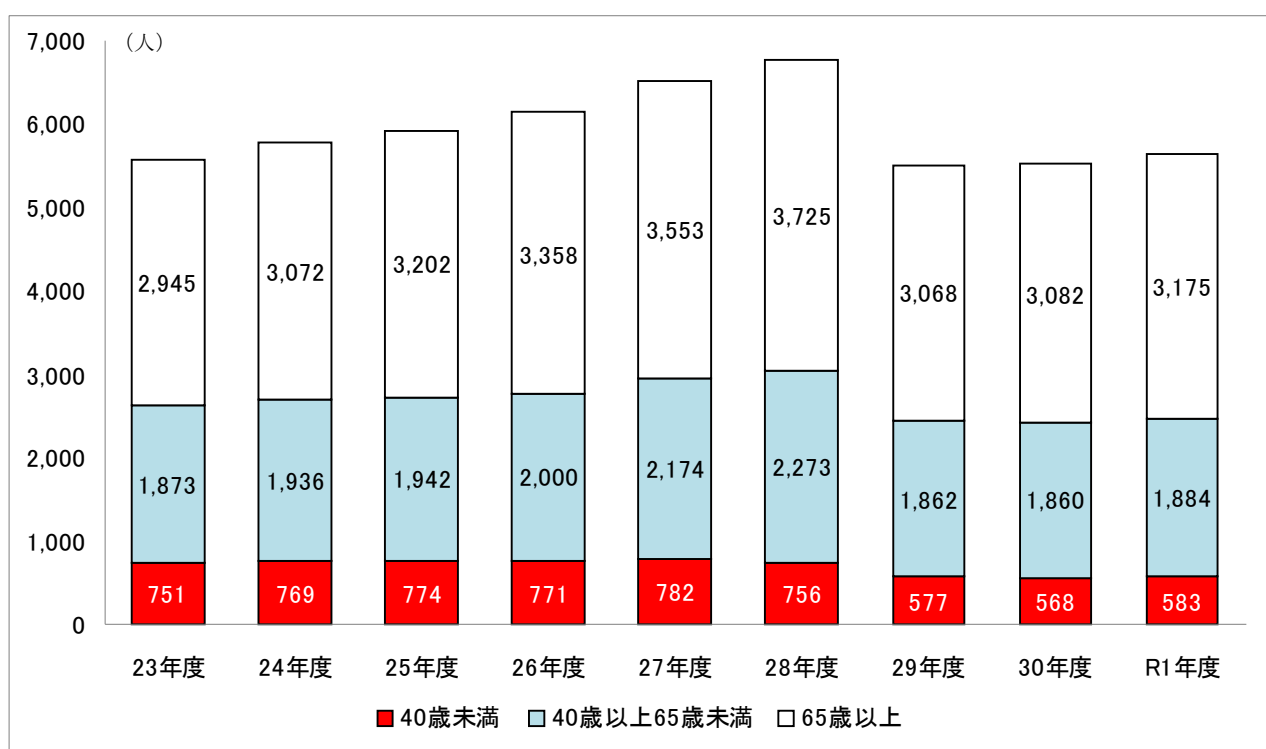


4 難病患者の動向

令和2年3月31日現在、特定医療費（指定難病）医療受給者証の交付を受けている難病患者は5,642人となっており、近年は横ばいで推移しています。（図Ⅱ－4－1参照）

なお、平成25年4月から難病等による障害のある人が、障害福祉サービス等の対象となっています。令和元年7月からは、対象となる疾患は361となりました。

■ 図Ⅱ－4－1 特定医療費（指定難病）医療受給者証交付数の推移（各年度末現在）

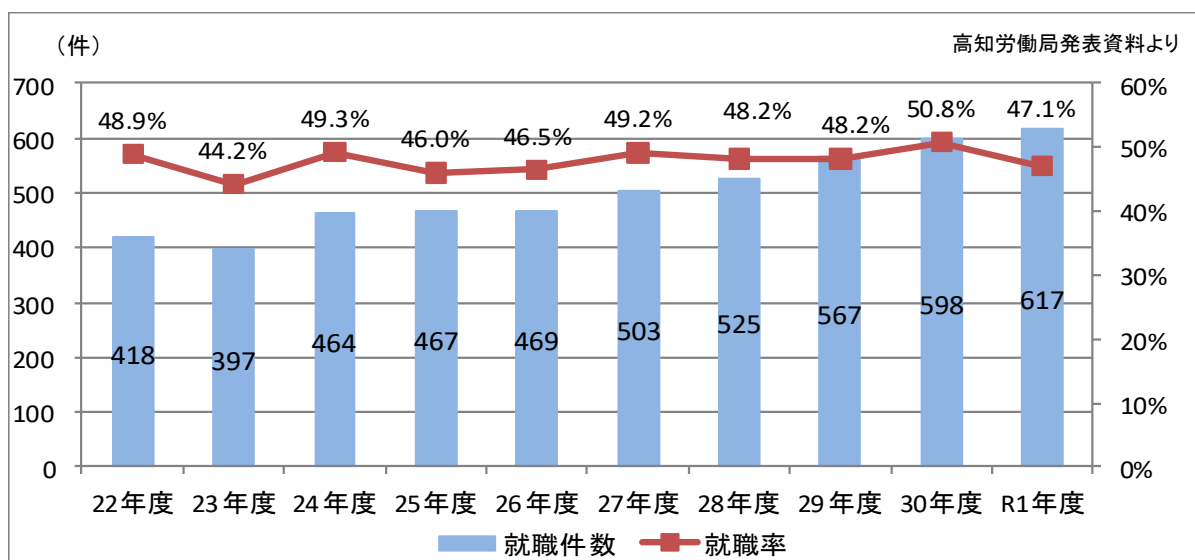


5 障害のある人の就労状況等

(1) 障害のある人の就職件数・就職率

令和元年度の本県のハローワークを通じた障害者の就職件数は、617件で、新規求職者数に占める就職率は47.1%となっています。(図Ⅱ-5-1参照)

■ 図Ⅱ-5-1 公共職業安定所における障害者の就職件数・就職率



(2) 障害者施設等の平均工賃の推移

令和元年度の本県の平均工賃は20,005円となっています。また、全国平均に比べて高い状態が続いています。(図Ⅱ-5-2参照)

■ 図Ⅱ-5-2 障害者施設等の平均工賃の推移

